

本資料の内容は、第42回日本救急医学会総会・学術集会の特別企画2「女性医師参画の取り組みについて」のセッションで発表した内容を一部改変して提示しています。

内容についての質問や転載については、日本救急医学会事務局までご連絡頂ますようお願いいたします。

# がんばれ！女性救急医

応援に必要なものは・・・

東京都立墨東病院

救急診療科・救命救急センター

岡田昌彦

# 墨東病院はこんなところですよ

- 東京都・区東部医療圏にある定床729床の26の診療科からなる都立総合病院。
- 救急診療体制では、walk inと二次救急搬送患者が、ER（救急診療科）三次救急は救命救急センターで診療を行う二本立ての運営。
- 救急部門の現況は、年間約4万人超の初期二次救急患者の診療を行うERと約2千数百件超の三次救急患者を受け入れる救命センターで年中繁忙。



# 当院の救急医の業務は？

## 診療

- ERは、初期治療から入院までを担当
- 救命センターでは独立専従型のスタイルで、後方病床を55床有しており、初期治療と入院後の集中治療や手術から退院まで担当
- レジデントの教育指導

## ERの コーディネート (監督・指導)

- 来院患者のトリアージ業務
- ホットラインの対応（東京消防庁・他院要請）
- ERブースでの診療の指導監督業務
- 院内状況（手術・検査）の把握、救急病棟管理
- ERで生じた諸問題、トラブル等への対応業務
- 重症者発生時の蘇生処置と救命センターと連携

そんな野戦病院的な当院では・・・

## 女性救急医

として



もう一件  
受けるよ～！

2系列中ダヨ～  
頑張るねえ～

スタッフ3名（育児中2名）とレジデント2名が  
勤務しています

# 墨東病院の女性救急医支援の 三本柱！

シフト勤務制

チーム診療制

病院としての  
女性医師支援

# シフト勤務

～墨東病院の救急部門が取り組みとして～

- 妊娠判明時より当直業務を免除で日勤業務のみとする。
- 妊娠中・産後は状況に応じて勤務形態が選択できる。(時短勤務・週数回勤務・日勤のみのフルタイム etc)
- 産休復帰後は、生活が安定するまで当直免除で時短勤務 (8:00～17:30)
- 児の体調などにより急な休みや早退を認める。
- 週1パート勤務でもOK・復職リハビリにも有効
- 院内保育室との連携で完全母乳育児も可能。



# チーム診療

～墨東病院の救命センターの取り組みとして～

内科・外科・整形・脳外科でチーム制による診療体制をとっている。

毎日チームの申し送りを朝夕15分実施。主治医が休み、もしくは明けの患者にはその日の担当を決めてフォローしている。

時短・シフト勤務でも主治医グループとして診療にあたることが可能

# 病院としての女性医師支援

当院の院内保育室は

月～土 7:30-19:30

(日曜・祝日はお休み ココが弱点)

延長は21時まで可能

夜勤時に朝まで預ってもらえるのが  
週2日までと決められている。

現在、よりフレキシブルに対応  
してもらえるように交渉中



院内保育室

# 女性内科医からERでの復職支援

～プロフィール～

卒後十数年目の現在主婦 子育て中

ひとこと

「しばらく仕事から離れていましたが、復職しました。週一回のERパートタイム勤務は、無理なく始めることができました。 上級医の眼が行き届いてるので安心して診療ができます」

無理なくできる時間でre-start!  
上級医の指導とバックアップで安心感を



# 女性救急医の出産・子育て支援

～プロフィール～

救急医      子育て真っ最中

ひとこと

「一人目に続いて二人目も妊娠から産休まで続けて勤務できました。ERは時間でシフトが切り替わるので勤務しやすいです。院内保育室があったので、産休のみで仕事復帰しました。でも育児家事との両立は大変です。今は、レジデント教育をしっかりとやって女性救急医のrole modelとなるべく燃えています。」

シフト勤務と他の救急医たちのカバーとバックアップで安心して勤務できる

# 女性救急医から出産・子育て支援2

～プロフィール～

当院 救急医 卒後十数年目

- ここは男性・女性の区別がない。女性ということでは不公平感を感じたことは一度もない
- チーム制診療でより働きやすくなった

救命医として仕事の継続とモチベーションの維持はチーム制が有効



# おわりに

- 女性救急医を3つの柱でささえる
- 妊娠・出産・子育てに伴う肉体的、精神的な負担をシフト勤務制により軽減する。
- 子育てなどによる時間的な制約による診療（主治医として治療に関わること）へのモチベーションをチーム診療制により保つ
- パートタイムでの復職支援目的の研修を受け入れて自信を取り戻せるよう指導する
- 病院として院内保育施設などのハード面でのサポートを行う